

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	京都市児童療育センター「きらきら園」（保育所等訪問支援事業「きらきら園」）		
○保護者評価実施期間	2025年 10月 31日		2025年 11月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 5名
○従業者評価実施期間	2025年 11月 17日		2025年 11月 17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3名
○訪問先施設評価実施期間	2025年 10月 31日		2025年 11月 21日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	6施設	(回答数) 6施設
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 23日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問先施設との丁寧な連携	訪問時の連携に留まらず、事前・事後の連携も頻度が高く、書面や電話、メールでのやり取りなど丁寧に実施している。	事業本来の目的でもある訪問施設の後方支援のためにも、個別の丁寧な連携を継続しつつ、事業所としての基本的な連携方法についても検討する。
2	訪問先施設への具体的なわかりやすい提案の実施。	担当者が出された質問や疑問に対する提案を、訪問先施設でイメージしやすく取り組みやすいように資料をお渡しして伝えたり、対面や電話で説明したりするなど工夫している。	担当者が対応しやすいように、アセスメントを充実させ、対象児の理解の助けとするとともに、次年度以降に多職種で取り組むことができる体制を目指し、対応をさらに充実させる。
3	対象児が楽しく活動できることをめざした、専門性を発揮した取り組みの実施。	事前準備を丁寧に取り組み、訪問先施設での活動が対象児にとって楽しめるように工夫をして取り組んでいる。	担当者の会議を開催し支援方法などを共有したり、準備の作業時間を持てるようにして個人負担を軽減し、組織として支援の質を向上できるようにする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	担当者個人の対応に頼ってしまっており、組織的な整備がされていないこと。	令和7年度は実施人数が急が増えたが、各担当者の努力に頼る状況になってしまっていた。	担当主任や担当児発管の参加する担当者会議を定期的実施し、組織として取り組む基盤をつくる。
2	独自のマニュアルが整備されていないこと。特に安全計画や非常時の対応について、訪問先施設と連携した計画が立てられていないこと。	児童発達支援事業と併用していたが、保育所等訪問支援事業としての独自の整備が必要であった。	早急に保育所等訪問支援事業としての安全計画や非常時の対応をはじめ、マニュアルを整備し実施する。
3	保育所等訪問支援事業としての研修が実施されていないこと。	保育所等訪問支援の担当者からの聞き取りができておらず、実施する中で必要と思う研修について実施計画を立てられていなかった。	上記の組織づくりや担当者会議を定期的実施し、研修計画についても整備して実施する。